

平成 31 年 5 月 5 日現在

機関番号：32826

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04189

研究課題名(和文) 長期入院精神障害者の退院支援における精神保健福祉士の「かかわり」

研究課題名(英文) Establishing Kakawari Relationships between Psychiatric Social Workers and Long term Inpatients in Mental Hospitals

研究代表者

國重 智宏 (Kunishige, Tomohiro)

東京通信大学・人間福祉学部・助教

研究者番号：80584383

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、長期入院精神障害者の退院支援場面における相談支援事業所の精神保健福祉士(PSW)の「かかわり」のプロセスについて明らかにすることを目的とする。調査の結果、三つのカテゴリーからなる「かかわり」のプロセスを明らかにした。まずPSWは、退院支援という自らの業務を一旦横におき、長期入院精神障害者との「お互いを知るための「つきあい」>を通して、彼らに「人」として信用してもらう。次に彼らと「パートナーとして認めあう関係」を築き、退院という共通の目標に向けて協働する。最後に退院という目標がなくなり、援助関係が終結した後も、彼らと「人」として「つながり続ける「かかわり」>を築くに至っていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

長期入院精神障害者の退院支援におけるPSWと長期入院者との「かかわり」には、以下の三つの特徴があると考えられる。第一にPSWは、場面毎に自らの「人」としての側面と「支援者」として側面を入れ替えながら関係を積み重ねていくことを、PSWの「かかわり」と捉えていると考える。第二にPSWの「かかわり」における「つきあい」とは、長期入院者との二者関係においてPSWが専門職主導の支援を手放すことを相手に示す行為である。第三にPSWが支援終了後もつながり続ける理由として、自分の意思とは関係なく入院せざるを得ない彼らを前にして、PSWが逃げださず共にその現実に向き合うことで、彼らを支えていると考える。

研究成果の概要(英文)：This investigation aims to demonstrate the process of establishing kakawari or personal relationships between psychiatric social workers in social support centers for persons with disabilities and long-term inpatients in mental hospitals. The results of the examination elucidated that the process of kakawari was formed in three phases. First, psychiatric social workers disregard their ongoing discharge planning and support duties so as to know the patients assigned to them, and establish personal relations with them. Consequently, a relationship of trust is built between the psychiatric social workers and their inpatients. Second, psychiatric social workers and inpatients come to trust each other as partners, and together to achieve discharge from the institution. Finally, psychiatric social workers establish a human connection or kakawari with their inpatients and continue to associate with former inpatients after their primary role to achieve discharge is no longer required.

研究分野：ソーシャルワーク

キーワード：かかわり 人と人との関係 退院支援 地域移行支援 長期入院精神障害者 精神保健福祉士 PSW

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

わが国では、病院に1年以上の長期入院精神障害者(以下、長期入院者)が約20万人おり、うち年間1万人超の長期入院者が死亡により退院している(厚生労働省2014)。地域移行が進まない要因としては、わが国特有の民間病院比率の高さなどの複合的な要因が考えられるが、支援者側の「退院不可能」という先入観・対象者観が大きな退院阻害要因であり、支援者側のかかわり方を示しているとの指摘がある(古屋2015:60)。長期入院者に対する調査によると、彼らは病棟内での専門職との乏しい関係性の影響により、退院や将来を諦め、自主性を奪われ、怖さと治療への不信、やることのない日々という状態に陥る。仮に退院意思があったとしても、退院の見通しが不明なために入院に妥協せざるを得ない状況におかれていた(杉原2016:9)。また、援助者である病院勤務の精神保健福祉士(以下、PSW)に対する調査では、「(長期入院者)一人ひとりと開かれた関係をつくる」ことができたPSWは、「(長期入院者が)成功体験を積み重ね自信と安心につなげる」実践をし、彼らが「自信を持って退院の決心がつくように後押しする」と示されている(高木2017:150-1)。長期入院者の退院支援を担う者は、「退院したい」という想いを表出することさえ困難な状況におかれた彼らと向き合い、彼らの諦めや不安を受けとめ、彼らが地域生活に「慣れていくまでの過程をていねいに伴走する」(白石2012:24)ことが求められる。

こうしたクライアントとの関係を、PSWは「かかわり」と表現する。この「かかわり」とは、クライアントである精神障害者との関係を、PSWの視点から表す用語であり、彼らと「共にあること」「共に探ること」「共に歩むこと」など、クライアントと「共に」というPSWの態度を示す幅の広い概念である(公益社団法人日本精神保健福祉士協会2016:14)。

### 2. 研究の目的

本研究では、このPSWの「かかわり」を、「援助する者-される者」として出会った2人が、問題が解決し、援助目標が達成された後もつながり続け、専門的な技術を伴わない行為も媒介にして「共にある」という関係に至るプロセスであると仮定する。その上で、地域移行支援を担う相談支援事業所PSWの長期入院者との「援助する者-される者」ではない関係性の醸成のプロセスについて、長期入院者の退院支援において先進的な実績を有するA圏域でのインタビュー調査を通して明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究は、相談支援事業所において退院支援に携わるPSWに対するインタビュー調査と、元長期入院者に対するインタビュー調査という2つの調査から構成される。

相談支援事業所PSWに対する調査では、A圏域の相談支援事業所において長期入院者の退院支援を担当したPSW7名を対象に半構造化インタビューを実施した。インタビュー時間は平均59分、1人1~3回、計13回インタビューを実施した。インタビューガイドを作成し、それに基づき半構造化面接を行った。調査協力者の許可を得て、ICレコーダーに録音し、逐語録を作成して、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(以下、M-GTA)で分析した。

元長期入院者に対する調査では、A圏域の相談支援事業所PSWの退院支援を利用して退院した元長期入院者3名を対象に半構造化インタビューを実施した。調査協力者は3名とも男性、今回の入院期間は1年~10年となっている。インタビューは、調査協力者の自宅で実施した。インタビュー時間は、1人につき22分~58分であった。調査協力者の許可を得て、ICレコーダーに録音し、逐語録を作成して、ライフストーリー・インタビューにおけるテキストの解釈を参考に分析を行った。

#### 4. 研究成果

相談支援事業所 PSW に対する調査では、3つのカテゴリー、7つのサブカテゴリー、28の概念を生成した。以下、分析結果であるストーリーラインを<カテゴリー>〔サブカテゴリー〕、「概念」、「データ」及び結果図を用いて説明する。

相談支援事業所の PSW は、病院からの依頼で長期入院者と出会い、彼らの“退院意欲の確認”を行う。退院意欲がある場合は、彼らの希望に沿って〔具体的な退院支援〕を進めていく。退院意欲はあるものの地域生活などへの不安が高い場合は、〔不安に寄り添う〕ことから始める。退院意欲を示さない場合は、雑談や外出など〔ごく普通のつきあいを通して信用してもらう〕。そして、彼らの“退院への原動力を探る”ことなどを通して、自然と彼らの〔ストレングスに目〕が向く〕ようになる。こうして<お互いを知るための「つきあい」>を大切にして〔具体的な退院支援〕を進めていく。

退院が具体的になると彼らから退院に向けた悩みが吐露され〔共に悩む〕ようになる。様々な困難も生じるが、PSW が退院後もつながり続ける〔覚悟を伝える〕ことにより、不安を抱える彼らの退院後の後押しをする。退院後も様々な困りごとに直面する彼らに対して、PSW は彼らが望んだ生活ができるように〔支援を続ける〕。このようなプロセスを共にすることで、両者は<パートナーとして認めあう関係>になる。

そして PSW は、支援が終了したとしても、彼らにかかわった者として、何らかの形で“つながり続ける”。徐々に会う頻度は下がるものの、彼らと“つながっている感覚”をもち、彼らと<つながり続ける「かかわり」>を大切にしていく。

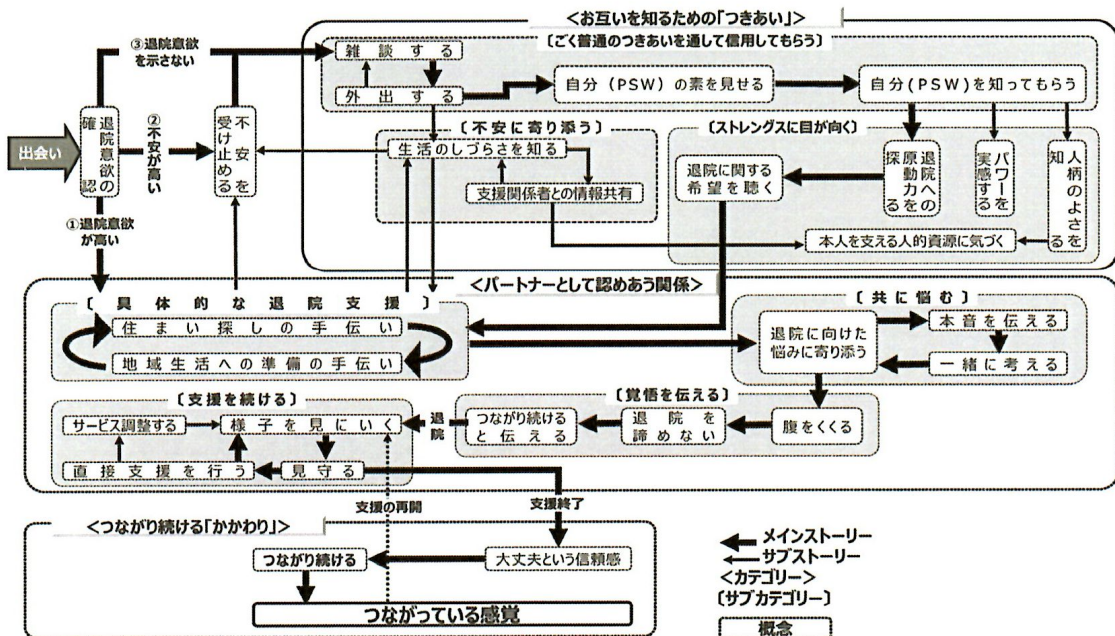


図1 長期入院精神障害者の退院支援における相談支援事業所 PSW の「かかわり」のプロセス

この長期入院者の退院支援における PSW の「かかわり」のプロセスとは、PSW が退院支援という自分の都合（業務）を横におき、ごく普通のつきあいを通して彼らに「人」として信用してもらい、その後、退院という共通の関心事（目標）についてパートナーとして協働する。退院という共通の関心事がなくなり、「援助する者-される者」の関係性が成り立たなくなった後も何らかの形で「人」としてつながり続けるというプロセスである。この結果は、これまで実践知として語られることが多かった PSW の「かかわり」のプロセスを実証的に示したものである。その意義について以下に述べる。

第一に PSW の「かかわり」は、常に同じ関係性が継続されている訳ではないことを示すこ

とができたと考える。PSWは、場面毎に自らの「人」としての側面と「支援者」として側面を入れ替えながら関係を積み重ねていくことを、PSWの「かかわり」と捉えていると考える。元長期入院者に対する調査においても、長期入院者は、「人と人」として退院に向けて共に歩んでくれるPSWを求めている一方で、必要に応じて相談できる専門職を求めていることが示唆された。このように「かかわり」とは、場面毎に「人」としての側面と「支援者」「クライアント」としての側面を入れ替えながら関係を積み重ねていると考える。第二にPSWの「かかわり」における「つきあい」とは、長期入院者との二者関係においてPSWが専門職主導の支援を手放すことを相手に示す行為である。PSWがクライアントを変えるのではなく、PSWが「つきあい」を通して先に変わることであり、クライアントも変わり、両者の関係性が変化していく。第三にPSWが支援終了後も“つながり続ける”ことの実践上の意味を示すことができたと考える。長期入院者は、自らの意志とは関係なく、入院をし続けなければならない状況におかれていた。この不合理的な状況におかれた彼らを前にしてPSWが逃げださず“つながり続ける”ことにより、共にその現実に向き合い、彼らを何らかの形で支えていると考える。A圏域では、「支援者」であり「人」であるPSWが業務外の活動に対する所属機関の理解の下、時間をやりくりしながら、同じ「人」である彼らと“つながり続ける”。そして、この「つながり」が、PSWに「少しでも1%、2%でも可能性ある退院を、そこは何とか、そこから突破口は何か、きっかけを開いて、退院できる人は退院して欲しいな」という想いを抱かせ、次の退院支援へと向かわせていた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

- 1 國重智宏(2019)「長期入院精神障害者の退院支援における相談支援事業所に勤務する精神保健福祉士の『かかわり』のプロセス」『社会福祉学』59(4), 30-40, 査読有。
- 2 國重智宏(2018)「退院支援における相談支援事業所PSWの『かかわり』: 長期入院精神障害者へのインタビュー調査から」『ライフデザイン学研究』(13), 285-296, 査読無。

〔学会発表〕(計3件)

- 1 國重智宏(2018)「北海道帯広十勝圏域の地域移行支援における相談支援事業所PSWの『かかわり』」, 第54回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会/第17回日本精神保健福祉士学会学術集会。
- 2 國重智宏(2017)「長期入院精神障害者の退院支援におけるPSWの『かかわり』」, 日本精神障害者リハビリテーション学会 第25回久留米大会。
- 3 國重智宏(2016)「長期入院精神障害者の退院支援における精神科ソーシャルワーカーの『かかわり』」, 日本精神障害者リハビリテーション学会 第24回長野大会。

〔図書〕(計2件)

- 1 國重智宏(2018)「第8章精神科医療 第3節治療・その他 8精神科病院からの退院及び地域定着支援」精神保健医療福祉白書編集委員会編『精神保健医療福祉白書2018/2019』中央法規出版, 172, 総頁226頁。
- 2 國重智宏(2017)「第3章精神医学ソーシャルワーカーの実践と精神保健福祉士の誕生 第1節精神医学ソーシャルワーカーの実践とあゆみ」井上牧子・西澤利朗編著『精神医学ソーシャルワークの原点を探る』光生館, 47-62, 総頁180頁。